（平成２８年１２月１３日）　**金属課ヒアリング提出資料**　　全国鉄鋼販売業連合会

１．普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

＊上段は前期比在庫増減、中段［　］は在庫水準、下段（　　）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る。点線内は全鉄連による予想数字（　　）内は誤差率＝予想値÷実績

平成28年５月末	平成28年８月末	平成28年11月末見通し	平成29年２月末見通し
＋２５千トン ［　２２４５〃　］ （１０１．１%）	－６２千トン ［　２１８３〃　］ （９７．２%）	－４４千トン ［　２１３９〃　］ （９８．０%）	＋２１千トン ［　２１６０　〃　］ （１０１．０%）
２１９８千ﾄﾝ (97.9)	２１７７千ﾄﾝ (99.7)	＊	＊

２．前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成28年６月末	平成28年９月末	平成28年１２月末見通し	平成29年３月末見通し
鉄筋、Ｈ形鋼、Ｃ形鋼の平均市況は 71,400 円で前年比－7,300 円、前期比では＋1,000 円。上昇に転じたスクラップ価格は短期間で下落。鉄筋は 4～6 月の大量発注の反動で市場は閑散状態であった。Ｈ形鋼は底入れしたか微妙な状況であり、停滞した荷動きが続いていた。その一方でメーカーは相次ぎ値上げを発表したが、それに追従できる市場環境になく、在庫状況も需要見合いとはいえなかった。	鉄筋、Ｈ形鋼、Ｃ形鋼の平均市況は 70,100 円で前年比－6,000 円、前期比では－1,300 円。販売は前年並の実績であったが、市場には値上げ玉が入荷し始め、その転嫁が進まず、粗利を圧迫していた。需要は僅かだが増加傾向を見せているが、品種によって状況が異なり、一概に復調の兆しが見えてきたとは言い難い。在庫は減少し、歯抜けがでているが、市況押し上げの要因とはなっていなかった。	販売動向は昨年並みの水準で増加しておらず、今般の需給均衡化は仕入圧縮による在庫減少に起因している。原料高を背景にメーカーは大幅な値上げを数次に渡り実行している。その上げスピードがあまりに速く、流通は追従できず、需要家の強い抵抗もあって、価格転嫁を達成するには、一山も二山も越えなければならない。また、この値上げに適応できない流通や需要家が現れることも想定され、信用不安の顕在化が懸念される。	メーカーの追加値上げが確実視される趨勢にあって、市況は後追いながら、強含みで推移するだろう。焦点となるのは需要の出方と量であり、仮需と実需を見極めることも肝要である。そして、２年越しに期待外れで終わった需要動向を顧みれば強気一辺倒にはなれない。その一方で不採算回避のための値上げ転嫁完遂という難題に対処しなければならない。量の確保と価格引き上げの両面で厳しい交渉に晒されることになろう。

３．在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

価格は上昇しているが、需要が良くなって上がっているわけではない。陥没価格の是正、申し込みカット、値上げなど供給側の姿勢によってタイト感が現れている。形鋼、中板、縞板で仮需発生との声を聞く。今後、需給均衡化は継続していくと思われ、荷揃えに苦慮する場面もあるかもしれない。引き受け削減により在庫積み増しは難しく、今ある在庫を大事に扱っていく姿勢で臨んでいくだろう。

４．大阪、愛知の動向

（大阪）関西は建築の大型物件はないものの中小物件を中心にまずまずの動きとなってきた。各メーカーが値上げ一色となってきたため、地方筋からの仮需が多少出てきているものの、全般的に荷動きは今ひとつ盛り上がりに欠け、価格転嫁にはまだまだ厳しい状況が予想される。来期は遅れていた公共土木工事も出始めるため、多少の期待は持てそうだ。

（愛知）高炉、電炉各メーカーの大幅値上げに流通はその転嫁に必死になっているが、ユーザーの抵抗は強く値上げはようやく緒についたところである。最安値は切り上がったがその先は難航している。ユーザーの一部には若干の転嫁受け入れ意向を示しているところもあるが、メーカーは年度末に向けて更なる値上げを予定しており、両者の話はかみ合っていない。長年の懸案である加工賃の改定を含め、年末年始は挨拶もそこそこに厳しい価格交渉が続くものと考えられる。全体の荷動きは悪くないのが救いである。